

# いわちゃん ポスト

千葉県議会議員

## 岩井やすのり



1970年生まれ47歳 早稲田大学大学院政治学研究科修了  
県議当選2期目 若手県議として地域の課題に取り組みます!

HP <http://www.iwai-y.jp>

mail [mail@iwai-y.jp](mailto:mail@iwai-y.jp)

### 県立幕張総合高入試で実技優遇

### 氷山の一角とも

今年3月に発覚した、県立幕張総合高入試にて実技検査が優遇されていた問題。県立高入試の構造的な問題として、大きな波紋を広げています。

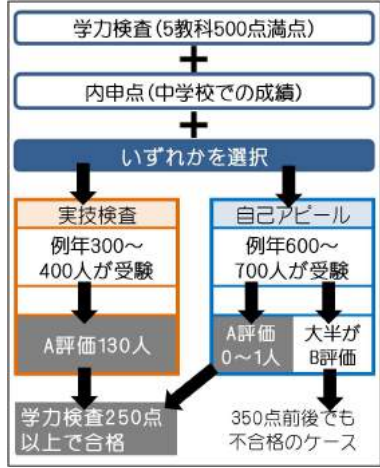
#### ●文武両道を実践する人気校

県立幕張総合高校は平成8年に新設された比較的新しい高校です。7階建て吹き抜け構造の教室棟や3千人収容のアリーナなど充実した施設が注目され、今春の受験倍率は2.58倍と県内屈指の高さ。近隣では県立柏高校や同八千代高校にも迫る進学校である一方、過去3年間に、サッカー部、陸上部など、計8つの部活動が全国大会出場を果たす等、運動系部活動が盛んな学校としても知られています。

#### ●実技で「A」自己アピールの250倍

同校が2月中旬に実施する前期入試では、学力検査、内申点のほか、部活動への参加を前提とした「実技検査」または口頭による「自己アピール検査」を選択受験し、A〜Cの3段階評価を受けた上で加点され、合否判定される仕組みとなっています。問題となったのは、実技受験者への優遇です。実技か自己アピールでA評価を得れば、学力検査が250点以上等

県立幕張総合高入試の仕組み



の要件を満たせば合格となったのですが、実技では例年300〜400人の受験者のうち130人がA評価となる一方で、自己アピールでは例年600〜700人のうちわずかに0〜1人。また、自己アピールの評価にあたった教員は、「検査担当者から『なるべくA評価はつけないように』と指示された」とも証言しています。結果、A評価の受験生は学力検査で、250点程度で合格する一方、その他の生徒は350点前後でも不合格となるケースがあったといえます。受験者のうちA評価を受ける割合は、自己アピールで0.15%であるのに対し、実技では37%とその差は実に250倍。また、A評価を受ける130人は事前にリスト化されていたとされ、公平性、公正性を欠いた選抜方法であったとの指摘は免れません。



●各検査の配点明らかにせず  
～県立高前期入試～  
そもそも、学力検査と内申点のみで評価される後期試験と異なり、実技や自己アピールなどの検査が加わる前期試験では、県内の全県立高校でその加点方法が明らかにされていません。つまり、実技や自己アピール検査に、学力検査(500点満点)以上のべらぼうな配点が課されていてもおかしくないことになるのです。もちろん、学業以外の運動やその

他技能を評価したり、特色ある学校づくりを推進したりすることは称賛されるべきものですが、選抜基準や検査などの配点を公にしないことは、意図しない受験、意図しない学校生活を招きかねず、決して容認できるものではありません。  
ある高校関係者は、今回の件について「氷山の一角」であると漏らすなど、構造的な問題であることをうかがわせます。これを契機に県立高入試の透明化をはかるべく、県議会にてしっかりと働きかけてまいります。

### 県議選区割変更が最終決定～印西市・栄町合区に

千葉県議会で議論されてきた一票の格差と議員定数の問題について、2月県議会にて、県議選の選挙区割りを変更し、定数を1減らす条例改正案が可決されました。平成31年実施の統一地方選から適用となります。

#### ●銚子市6千人減で、区割変更まったなしに

千葉県議会議員選挙における一票の格差の問題では、10年ぶりに実施された平成27年の国勢調査値で、県議1人あたり人口が最も少ない銚子市の人口が約6千人減少する一方、県議1人あたり人口が最も多い印西市人は6千人余り増加し、一票の格差は2.88倍へと拡大し、問題視されていました。また、人口の多い選挙区の定数が人口の少

#### 県議選区割等の変更点 (H31統一地方選より)

- ・旧香取郡選挙区を廃止し、東庄町を銚子市選挙区(定数2)に、神崎町・多古町は香取市選挙区に吸収(同2)
- ・印西市と栄町の選挙区を合区(定数2)
- ・佐倉市と酒々井町の選挙区を合区(同3)
- ・山武市と山武郡の選挙区を合区(同2)
- ・鴨川市と南房総市・安房郡の選挙区を合区(同2)

ない選挙区の定数より少ない逆転区(逆転現象)は、銚子市(定数2)と印西市(定数1)、銚子市(同2)と八街市(同1)等の他、佐倉市(同3)と流山市(同2)、銚子市と旭市(同1)、君津市(同2)と印西市(同1)など計8通りへと拡大。選挙制度改革はまったなしの状態となっていたものです。

#### ●定数1減、飛び地・逆転選挙区が解消に

可決された条例改正案では、△旧香取郡選挙区(定数1)を廃止し、東庄町を銚子市選挙区(同2)に、△神崎町と多古町が香取選挙区(同2)に吸収されることになるほか、△印旛郡選挙区(栄町、酒々井町)が解体され、栄町は印西市選挙区と合区(同2)、酒々井町は佐倉市選挙区と合区(同3)、△山武市と山武郡選挙区が合区(同2)、△鴨川市と南房総市・安房郡選挙区が合区(同2)と、計10選挙区にわたるもの。定数が1減の94、選挙区数は4減の42となり、課題となっていた飛び地や逆転選挙区が解消され、選挙区間の一票の格差は2.44倍に是正されることとなります。



# 印西市が急きよの離脱～2市1町消防広域化ご破算に

印西市、栄町、白井市の2市1町で話し合われてきた印西地区消防と栄町消防による消防広域化。地域間の連携を深め、消防力強化を図るというものでしたが、印西市の突然の離脱によりご破算となった格好です。

## ●消防車6台で食い止められず～糸魚川火災

140棟もの家屋が延焼した、昨年暮れの糸魚川市火災は未だ記憶に新しいところですが、その火災の大規模化の一因として指摘されたのが、消防力の不足です。



この火災では、糸魚川消防本部が所有する6台全ての消防自動車が投入されたものの、消火活動は困難を極めました。火災発生から1時間半が経過した同日正午ごろに、近隣の上越市や新潟市などの消防本部に応援を要請。最終的には富山県などあわせて約1000人の消防隊員が消火にあたり、出火から10時間あまり経った午後9時前ようやく消し止められたのです。

都市部の強力な消防力を持つ消防本部では、初動で10台以上の消防自動車が駆けつけるのも珍しくない中、消防自動車6台という地元消防本部の消防力の不足が、火災の大規模化を招いてしまったと言えます。

## ●印西市長ら関係者がそろって委員を辞任

各消防本部の消防力不足については、国や自治体も手をこまねいてきたわけではありません。国は、車両や施設の整備に関わる助成制度を設ける等して、消防本部同士の統合を推し進めており、昨年4月までに全国48の地域で消防広域化が実現しています。

## 2市1町の消防広域化に関わるこれまでの経緯

平成28年7月	広域化連絡会発足
8月	第1回協議会 印西・白井両市が財政的メリット求める
11月	第2回協議会 態度決定時期を29年3月とした
	消防庁要望 広域化に伴う施設整備等の支援を要望
平成29年1月	第3回協議会 両市に財政負担リスクがない事務委託方式に決定
2月	第4回協議会 広域化の検討に関する「まとめ」に合意
3月	第5回協議会 正式決定が予定されていたが、印西市が離脱

北総3自治体においても、消防自動車は、印西地区消防組合で計8台（印西市6台、白井市2台）、栄町消防本部で2台の配置にとどまるなど、大規模災害時等の消防力不足が懸念される中、昨夏には2市1町による協議会が設けられ、広域化に向けた話し合いが進められてきました。本年1月には「事務委託方式」との広域化方針が決定し、いよいよ正式決定という3/13の協議会の席上で一転、印西市長ら市関係者が揃って委員を辞任。印西市の離脱により広域化協議は不成立となってしまったのです。

協議最終盤での急きよの離脱に、関係者から落胆や当惑の声が上がったのも無理はないところではあります。

## ●市議会で賛否を問うことはできなかったか

市担当者いわく、「財政的なメリットがない」「市議会の理解が得られない」というのが、印西市離脱の理由とのこと。ただ、消防広域化を実施するためには、そもそも協議成立後に関係各議会での承認が必要だったわけで、離脱せずに印西市議会にて賛否を問うべきだったのではとの声が聞かれます。

消防力強化は、地方都市が抱える共通の課題。消防広域化が不成立となった中、住民の生命と財産を守るため、新たな方策が求められることとなります。

## 消防広域化とは



# 鎌ヶ谷本桮線バイパス 豊年橋橋脚の設置へ

## 急カーブ連続で救急車がう回～鎌ヶ谷本桮線

県道鎌ヶ谷本桮線は、一部国道464号を経由しながら、鎌ヶ谷市初富から印西市安食ト杭までの全長31kmの幹線道路。千葉NT地区と成田空港方面へのアクセス道路として位置づけられています。

このうち同バイパス事業は、国道464号の印西市萩原地先から、県道成田安食線の栄町安食地先（旧ナリタヤ跡地近く）までの延長4.5km、幅員16.0mを整備するものです。長門川に並行して走る現道は、道幅が狭く急カーブ区間が連続するため、救急搬送時は患者への負担軽減から他道にう回しているほど。歩車道分離の同バイパスの開通により、災害時等の救援・救助活動でも円滑で迅速な移動が期待される場所です。

## 架橋から50年余り/自動車1台の通過がやっと

さて、鎌ヶ谷本桮線バイパス事業の中でも特に重要視されているのが、長門川に架

## 豊年橋の施工状況（H29年4月現在）



かる豊年橋の架け換え工事です。栄町安食と本桮地区を結ぶ豊年橋は、地域住民にとって日々の生活道路となっている一方、架橋から50年余りが経過し、自動車も1台通るのがやっと。町とともに、老朽化の激しい豊年橋の先行開通を求めてきました。

## H29年度は仮橋と橋脚の設置を予定

バイパス事業に伴い新しく設置される豊年橋は、橋長105m、全幅員12m（道路幅員7.5m、片側1車線、歩道片側3.5m）と

なる見込み。豊年橋付近では、既存水路の真上に新道が設置されることから、う回道路とう回路を設置。本年3月末までに、旧水路であった箇所地盤改良と既存水門の撤去、長門川右岸（安食側）の橋台（橋脚を支える台）設置を終えたところではあります。

今年度は、現豊年橋の脇に工事用の仮橋とともに、P1・2の2基の橋脚（左図参照）を設置し、いよいよ豊年橋完成へラストスパート。肝心の完成時期は平成30年代初頭の見込みですが、引き続き、早期開通を目指し働きかけてまいります。

## 地域の課題について 声をお寄せください

身近でお困りになっていること、疑問点などありましたらお気軽にご連絡を。誠実に対応いたします！



## 岩井やすのり事務所

〒270-1505 印旛郡栄町安食台 2-26-23-202  
tel **0476-36-7799** fax **0476-36-7802**  
メール [mail@iwai-y.jp](mailto:mail@iwai-y.jp)